



のびる ほどっ子！

ほっとな未来へ 3C!

令和5年6月30日

横浜市立保土ヶ谷小学校

学校長 宮生 和郎



“違い”が生み出す無限のパワー

～「自然」「人」「こと」身近にある深い学び～ 校長 宮生和郎

「梅雨明けた?」「いやまだじゃない?」電車の中で聞こえてきた会話です。6月の初めごろは雨の日が続き今年梅雨らしいなと思っていたら、6月後半は梅雨を忘れるような



天気が続きました。もちろん梅雨が明けた訳ではなく例年では7月の半ばごろ激しく雷が鳴った後夏空となり、梅雨明けとなります。梅雨明けだけでなく梅雨の始まりにも雷がなることが多いようです。私は小さい頃、目が眩むような光と物凄い音に、空の上でいったい何が起きているんだろうと疑問に思っていました。その後電気エネルギーのしくみを学ぶうちに、それは性質の異なる(冷たい空気と温

かい空気)空気が大量の氷の粒(雲)を発生させ、中の氷の粒が激しくこすれあって同じ性質(下部にマイナス上部にプラス)の電気がたまり、ある限界を超えると地上にプラスの電気が誘発されて一気に大量の電気が流れる(放電)現象と知りました。そのエネルギーは数億ボルトにもなるそうです。一説によると太古の地球では何か月も厚い雲に覆われて雷が海に落ち続け、その頃に大気中の窒素などを原料として海の中で生命の素となるアミノ酸ができたのではないかとのことです。実は人間が体を動かしたり考えたりするときにもプラスとマイナスの電気の差によってエネルギーを得ているそうです。大自然にある“違い”はとてつもないパワーを秘めているのだと感じます。

自分の想いを外に出してこそ感じ取れる“違い”

先日、外国から本校に転入してきた児童のクラスでのひと場面に、子どもたちの違いを感じ取る力、人を想う力を感じ、とても温かな気持ちになりました。来日して間もない児童は日本語の習得はこれからのため、初日には様々なクリエイションの中でクラスメイトと交流しました。その時に感じたことを次の日の朝の会で分かち合っていたことです。「きっと『すわる』という言葉は覚えたよ」「もしかしたら〇〇は苦手なのかな、それとも文化の違い?」「あの時間はしんどそうだったね。」「もっと私たちが何かできないかな?」20分ほどでしたが、一人ひとりが自分と転入生との間に起きたこと、感じたことを自分の言葉で表現し、転入生と自分との違いはもちろん、自分が感じたこととほかのクラスメイトが感じたことの違いが様々な方向から絡み合い、連鎖的にいくつもの(相乗的に)人間的なパワーが生み出されていました。まさに違いは変化に富む状況を生み出し、未来への可能性を広げるパワーなのだと感じました。